

(別添2)

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別

保育所

第三者評価の判断基準

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

事業所名（施設名）

阿南町立富草保育園

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 ■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 ■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 ■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 ■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。 	<p>○町の教育委員会が教育基本方針を作成しており、基本理念・基本方針・基本目標を設定、さらに幼児教育方針・保育目標が明示されている。保育課程は、これを受けて、町内3保育所合同で、保育理念・保育方針・保育目標を作成している。</p> <p>○3保育所合同で主任会や、年齢別担当保育士が研修を行い、毎年見直しをしながら編成している。保育内容・保育園の役割・地域の様子を明らかにして、保育時間の設定や年齢別の子どもの保育目標を立て、具体的に編成している。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 ■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 ■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 ■ 9 内装等には、木材を利用している。 ■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 ■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 ■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	<p>○各保育室に湿度もわかる室温計を置き、室温の調整や換気等、適切な状態に維持できるように配慮している。保育室は、一定の広さがあり、遊具や絵本等子どもにもわかりやすく整理されており、心地よく過ごすことができるように配慮がされている。</p> <p>○午睡は、通常はホールで行っているが、冬場は感染症防止のため、各保育室で昼食のあと準備をして行われており、寝具は未満児は毎週、3～5歳児は隔週で家庭に持ち帰っている。午睡中に汚した場合は園で洗濯をして清潔を保っている。</p>
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 ■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 ■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 ■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 ■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 ■ 18 せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。 	<p>○子ども一人ひとりの発達過程や家庭環境について、個人台帳に整理されており、子どもの状態に合わせた保育を心掛けている。また、週日案に沿った日誌には、その日の子どもたちの様子を記録し日頃から子どもたちの状態を把握するように努めている。未満児では、子どもの個人差を把握して個別計画書を作成し保育にあたっている。</p> <p>○危険につながる行為以外は、子どもの行動を見守り、否定した言葉を用いないように配慮して、おだやかに話すように心がけている。</p> <p>○自分を表現する力が十分でない子どもには、保育士から気持ちを汲み取って声かけをしている。また、選択肢をあげて、話しやすいように対応している。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	■ 19	一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。	○早寝・早起き、手洗い、うがい、食後の歯磨き、食事のマナーなどを年齢に応じた方法で子どもたちに伝えている。例えば昼食後の歯磨きでは、年中の場合、昼食が終わったら1分間砂時計を使って3分間歯磨きしてから遊ぶことを一人ひとり自主的にやれるよう見守るなど、主体性を尊重するよう心掛けて保育にあたっている。 ○登園・遊び・お茶タイムで一息ついて次の活動に入り、昼食・午睡・活動等一日の流れの中で、活動と休息のバランスが保たれるように工夫をしている。
	■ 20			基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。		
	■ 21			基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。		
	■ 22			一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。		
	■ 23			基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。		
		④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	■ 24	子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。	○子どもたちは、保育室の遊具や広い園庭で、自由時間には、それぞれに遊びを楽しんでいる。保育園の周りには自然があり、木の実や草花、昆虫、魚などとふれあう機会を作っている。また、お店屋さんごっこなどの表現活動や節分用のオニの面を作成するなどの創作活動、ブロックで何か作るなど自分で好きな活動ができる等様々な体験ができるように工夫がされている。 ○年長と年少の子どもがペアを組み、散歩等でめんどろをみるなど、同年齢だけでなく異年齢においても、一緒に活動できるように取り組んでいる。 ○散歩に出かけて、近隣の人々とふれあう、町の図書館へ出かける、移動図書館を活用する等、様々な体験を通して、社会的ルールや態度が身に付くように配慮している。老人クラブや民生・児童委員、町議会議員、近くの高齢者施設等との交流もあり、地域の人たちに触れ合う機会が多い。
	■ 25			子どもが自発性を発揮できるよう援助している。		
	■ 26			遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。		
	■ 27			戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。		
	■ 28			生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。		
	■ 29			子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。		
	■ 30			社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。		
	■ 31			身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。		
	■ 32			地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。		
	■ 33			様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。		

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。 ■ 36 子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。 ■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 ■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 ■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	<p>○現在、0歳児は1名だが、保育課程にそって個別保育計画を作成して保育にあたっている。月齢にあわせ、生活リズムを整え、応答的なふれあいや言葉かけを行い、安心して過ごせるように配慮している。</p> <p>○家庭とは、送迎時や乳児用の連絡ノートを活用して、連携を密にとっている。</p>
			⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。 ■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 ■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 ■ 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 ■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。 ■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 ■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。 	<p>○各年齢に応じて近隣への散歩を、日々実施して探索活動を楽しんでいる。子ども同士のトラブルは安全面を配慮しながら見守り、自我の育ちを受け止めて適切な関わりをするように努めている。ゆったりした環境で、ゆったりした対応をするように心がけている。</p> <p>○全体活動のなかでは、年齢の大きい子どもと一緒に活動を行っている。また、散歩中に近隣の人たちと関わる機会がある。</p> <p>○2歳までは、乳児用の連絡ノートを使用し、毎日園での子どもの様子を記入して、家庭との連携をとっている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。 	<p>○保育計画にそって、3歳児は、個々で遊びを楽しむだけでなく、友だちと一緒に遊びを楽しむことができるように、かるたやけん玉等を取り入れるなど、保育内容や方法を工夫し保育している。</p> <p>○4歳児は現在、年長さんになるという期待もあり、リーダー的な子どももでてきている。子どもたちの中で、どんな活動や遊びがやりたいのかははっきりしてきて、遊びが広がってきている。子どもたちの成長にあわせた保育計画をたて、保育をしている。</p> <p>○5歳児は、小学校入学を控え、かるたなども、自分たちだけで楽しむなど自分たちで自主的に進めることも多くなっている。卒園を前に、保育目標である、クラスで力を合わせて活動し、達成感や充実感をみんなで味わうことができるよう、日々の保育に努めている。</p> <p>○運動会には地域の人たちや小学1年生を招待して見てもらっている。また、近くの高齢者施設を訪問し、歌や踊りなど披露して喜ばれている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	■ 51	建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。	○障害のある子どもが入所した場合には、個別保育計画を作成し、保育にあっている。他施設を訪問して情報交換を行い、子どもの障害に応じた保育を検討しながらすすめている。 ○現在は当保育所に該当者はいないが、発達障害についての研修を3保育所合同で実施して必要な知識や情報を得ている。
	■ 52			障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。		
	■ 53	計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。				
	■ 54	子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。				
	■ 55	保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。				
	■ 56	必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。				
	■ 57	職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。				
	■ 58	保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。				
		⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	■ 59	1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。	○長時間保育は、異年齢全員で行っているが、お迎えが来るまで、ゆっくり自由に過ごせるように配慮している。また、異年齢になるので、年齢に応じたおもちゃで遊べるよう、年齢の大きい子と小さい子の関係に配慮している。 ○担当保育士は長時間保育専門の保育士と当番保育士が担当しており、子どもの状況について引継ぎができています。5時には、おやつを提供し、保護者には状況を話している。
	■ 60	家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。				
	■ 61	子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。				
	■ 62	年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。				
	■ 63	保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。				
	■ 64	子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。				
	■ 65	担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。				

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 ■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 ■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。 	<p>○年長児の保育計画に、小学校との連携を位置づけ幼保連絡会を実施している。小学校の教員が年長クラスの参観をして、担当保育士と懇談会を開くなど連携の場が設けられている。また、子どもの健康状態や友達関係、性格等情報の提供を行い具体的な引継ぎが行われている。</p> <p>○年長児は小学校の音楽会の見学や運動会に参加し、小学校の様子がわかる機会を設けている。また、保護者も出席する一日入学があり、小学校での生活や学習について見通しを持てる機会もある。</p>
	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 ■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 ■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 ■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 ■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 ■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 ■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 ■ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。 	<p>○入所時には、入所前の発育状況や予防接種、既往症等記入して提出してもらい、個別記録に記載されている。入所後の発育測定等の結果については、連絡ノート等に記載して保護者に知らせている。</p> <p>○インフルエンザや溶連菌など感染症の流行状況や予防について、園だよりに掲載せ、家庭でも注意するよう伝え、園での対応も併せて知らせている。</p> <p>○乳幼児突然死症候群について、職員間で資料を回覧して周知している。保護者に対しては、必要に応じて情報提供を行っている。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	■	79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。	○年間予定では、内科検診が年2回、歯科検診が年2回、蟻虫検査が年1回計画されている。歯科検診については、町の歯科保健事業で歯科衛生士と委託契約を結び、保育所において歯磨き教室や歯科指導を受けている。また、3歳以上の子どもは、フッ素塗布を公費で受けており、保育所でも、昼食後3分間歯磨きを励行して、虫歯予防に努めている。 ○健康診断等の結果については、保護者に伝えている。
	■			80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。		
	■	81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。				
		③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a)	■	82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。	○飯田下伊那保育園・幼稚園給食アレルギー対応指示書が作成されており、卵・牛乳・小麦・大豆など、食品別の対応方法等が明記されている。 ○アレルギーや慢性疾患等について保護者から聞き取りを行い、該当の子どもには医師や保護者と連携して個々にあった対応を行うようにしている。 ○町内保育園の研修会において、小児科の医師を招いて食物アレルギーの必要な知識を学んだ。
	■			83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。		
	■			84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。		
	■			85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。		
	■			86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。		
	■			87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。		

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 ■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 ■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 ■ 91 食器の材質や形などに配慮している。 ■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 ■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 ■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 ■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。 	<p>○保育課程の保育内容に「食育・食を営む力の基礎」の項があり、年齢に応じた取り組みを明示して、食事を楽しむことができるよう取り組んでいる。年間給食計画が、四期に分けて年齢別に作成されている。配慮事項では、食前・食後の挨拶、はしの扱い方、清潔、水分補給、食事マナーなどがあげられており、昼食時の保育に活かされている。</p> <p>○食事の量は、多い・少ないを確認して配っている。おかわりについては、子どもたちに声をかけして、様子を見ながら希望者に配っている。</p> <p>○畑で自分たちが作った野菜を食べるなど、年齢に応じて畑活動に取り組み、給食の時間には食材について話をするなど、食について関心を深めるように努めている。</p> <p>○給食だよりに、給食のカロリーやその月の食べ物・季節料理等の紹介を載せており、家庭と連携が取れるように努めている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものである。 ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	<p>○献立表は栄養士が3園同じ献立を作成し、各園で担当の調理師が調理をしている。子どもそれぞれが特別に食べられない物がある場合は確認している。また、栄養士が給食の人気メニューをおたよりに載せ家庭にも知らせている。</p> <p>○献立は季節に合わせた内容、食材は地域の農産物を使うように配慮している。例えば、1月は、きんとんや冬野菜の味噌汁、干し柿を使ったヨーグルト和え等が献立にあり、地域の切干大根を使うことが献立表に載っている。</p> <p>○0・1歳児は、保護者の栄養相談を行い、食物アレルギーや離乳食の進め方などを確認し、発達に合わせた味付けや調理に心掛けている。</p> <p>○調理員や祖父母参観日には、保護者や祖父母が給食を子どもたちと一緒に食べる機会がある。また、保護者参観日に、保護者を対象に栄養士から保育所の給食について話をしている。</p> <p>○年6回食材の放射能検査を行い、安全な食材確保に努めている。</p>
A	2 子育て 支援	(1) 家庭との 緊密な連 携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 ■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	<p>○連絡ノートを活用して日々の様子を伝えており、保護者からの連絡や家庭での様子、意見・要望も連絡ノートに記載されている。また、送迎時に声をかけるように努めている。家庭の状況等、必要があれば子どもの台帳に記録している。</p> <p>○保育参観日は年4回、保護者会は入園時と3月に行い、保護者と子どもの成長を共有する機会となっている。クラスだよりにおいても、子どもの成長がわかるように日々の保育の様子や活動を知らせている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 ■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 ■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 ■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 ■ 112 相談内容を適切に記録している。 ■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<p>○入園申し込み時に、家族状況票の提出があり、家族状況を把握した上で、4月には家庭訪問を実施して、保護者の悩みや心配事を聞き取っている。送迎時の会話の中で気になることがあれば、職員間で情報の共有をして対応を検討している。</p> <p>○保護者への支援としては、子育てについて、機会を作って話をしている。相談内容については、連絡ノートに記載している。</p>
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 ■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 ■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 □ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 ■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 □ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 □ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	<p>○家庭での虐待等権利侵害については、子ども教育係で取り組んでいる。保育園においては、日頃の保育の中で子どもの様子に気を配り、発育測定等の際には子どもの身体の様子を観察するなど注意を払っている。</p> <p>○心配されるケースがない場合でも、虐待等権利侵害に関する理解を促す取り組みを行い、虐待等権利侵害を発見した場合の対応等マニュアルを整備し職員研修を実施されることが求められる。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。 ■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 ■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 ■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 ■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 ■ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。 	<p>○保育課程に基づいて年齢別の年間計画書を4期に分けて作成している。さらに、月の指導計画を立て、週のねらいを養護・教育の項目別に定めている。週の日案日誌を日々記録し、週の反省として自己評価をしている。</p> <p>○3園合同の年齢別会議やケース相談の場を設けて、子どもの状況にあった援助方法について検討し、振り返り改善点をあげるなど、保育の質の向上を目指している。</p> <p>○自己評価を、毎週、毎月、年間と定期的に行っているが、自己評価の内容を課題や目標に沿った内容に整理するなど検討し、より充実した自己評価になるように期待したい。</p>